



— smile-smile —

スマイルスマイル

令和7年7月発行

第55号

社会福祉法人 園樹会
障害者支援施設 向徳舎
障害福祉サービス事業所
TEL:055-223-2500 FAX:055-223-2501
e-mail:koutokusya@fujisanmail.com
障害福祉サービス事業所 虹の色
TEL:055-223-2510 FAX:055-223-2509
e-mail:nijinoiro@fujisanmail.com
相談支援事業所 With(ウィズ)
TEL:055-223-2503 FAX:055-223-2504
e-mail:soudan.with@fujisanmail.com
共同生活援助 風の音
TEL:055-223-2507 FAX:055-223-2508
e-mail:kazenone@fujisanmail.com
発行者 理事長 塩澤一夫 甲府市向町277

令和7年度を迎えて

業務執行理事 中村 潤

新年を迎えてから、早いもので3か月が過ぎようとしています(この記事を書いている時には)。事務所の桜の鉢植えには桜が咲いて一足早い春の訪れを感じています。年度末、年度初めと理事会、評議員会とがあり、書類をまとめたり、職員の定例の人事異動があったり、職員も利用者の皆様もソワソワする時期でもあります。いろいろなことが動き、変わるのが4月です。利用者の方には迷惑なことだと思いますが。

年明けからは、一般企業でのベースアップ、初任給アップのニュースが多く、当法人でも基本給の見直しや福利厚生の見直しなど、働く環境の整備を行っているところです。ところが、法人設立から20年以上が過ぎ様々な設備の故障などがあり、予定外の出費も重なり、頭の痛いところです。

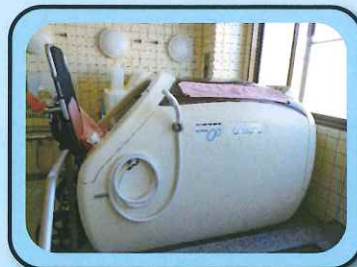
とは言え、利用者の方の生活を支える職員のはたらく環境を整え、より良い支援に結び付けることが大切です。この障害者支援という仕事を選んで働く人たちの、意欲につながるものは何か。人それぞれではありますが、お給料が増えたり、働く環境が良くなったりすること自体を嫌がる人はいないと思います。また、様々な知識を得て、実際の仕事に活かし、成功体験を得られる環境も大切だと思います。何より、職場の人間関係も大切です。そのためにはコミュニケーションも大切です。

様々な要因の中で職員が働き、利用者の方々が生活をしています。働く人たちにとっても、ここで生活している人たちにとっても、いい場所であることがとても大切なのだと思います。働いている人達が、どういう仕事をしたいのか。利用者の方々にどういった支援をしたいのか。自分なりのビジョンをもって仕事に取り組むことができれば、仕事への向き合い方も変わり、働きがいのある場所になるのだと思います。



最新の機械浴槽を導入しました

この度、公益財団法人 JKA 様より「2024 年度 福祉機器の整備 補助事業」に係る補助金をいただき、向徳舎男性棟(3階)・女性棟(2階)に特殊浴槽(シャワーポッド アラエル)を整備することができました。令和7年1月30日に納品され、翌日より使用を開始しています。シャワードーム式の機械浴槽を整備することにより、利用者様・職員共に身体的負担が軽減し、入浴サービスの快適化が図れました。また、入浴介助に関わる職員の削減に繋がることで、利用者様と関わる時間を増やし、幅広いニーズに応えながら質の高い支援の提供を目指して参りたいと思います。



【主な特徴】

1. 専用のシャワーチェアに移乗することで、そのまま入浴が可能
2. ボタン1つで、予洗いから洗身、洗い流しまで行える
3. ウルトラファインバブルシャワーがシワや毛穴の奥まで入り込み、汚れを落とせる
4. 陰部や臀部等、洗いにくい部位の洗浄をサポートする専用ノズルを配置
5. シャワードームの気密性と、ウルトラファインバブルの超微細な気泡により、身体の芯まで温めることができる
6. シャワー式のため、常に新しいお湯を使用でき、衛生面や感染症等にも配慮できる

新職員紹介



清水彩月

(令和7年2月20日女性棟配属)

①福祉事業所での仕事経験は?

以前は、高齢者のグループホームで務めておりました。

②これからの意気込みを

利用者様が安心して過ごせるよう、サポートして参りたいと思います。



新藤一敏

(令和7年3月12日男性棟配属)

①福祉事業所での仕事経験は?

看護助手を10年ほど行い、現在はGHの世話人をしています。

②これからの意気込みを

早く仕事に慣れて、利用者の皆様と仲良くなれるようにしたいです。また、介護関係の資格も取っていきたくと思っています。

◆苦情・要望について

受付期間：令和6年12月1日～

令和7年3月31日

1 苦情受付件数 : 0件

要望受付件数 : 0件

受付期間中に各事業所への苦情・要望はありませんでした。

今後とも、利用者・入居者の皆様に安心・安全なサービスの提供を心掛けてまいります。

新利用者様紹介



青柳タイラーさん

(令和7年2月18日向徳舎入所)

①好きな食べ物は何か?

お母さんの作ったみそ煮込みうどん。マクドナルドのフライドポテト。

②これからの意気込みを

ドライブや散歩が好きなので、楽しみながら生活をして欲しいです。(保護者様)

ご本人、保護者様の希望により夜間は向徳舎の施設入所支援、日中は虹の色の生活介護を利用します!

編集後記

夏至の頃となりましたが、お元気で過ごしのことと存じます。昨年度、広報誌の作成に携わらせていただきましたが、記事の内容を見るたびに、時の流れを実感しています。近年でグループホームの開設、修繕工事等を行い、利用者様が、生活しやすい環境整備や安全性の確保に努め、ブラッシュアップを図ってきました。感染症も以前と比べると落ち着いてきており、イベント時に保護者様の参加も多くなり、利用者様の喜ぶ姿が印象的でした。

喜びやより良い生活が継続できるよう、施設では、月一回の防災訓練を行い、近年、言われ続けている大型地震にも対応ができるよう訓練を行っています。また、防犯面も不審者の侵入に適切な対応ができるよう研修を行っています。利用者様が今後も安心して、楽しく生活ができるような施設でありたいと思っていますので、今年度も暖かく見守っていただけたら幸いです。

広報委員

河野真吾 村松信吾
芦澤龍弥 酒井幸生
栗田大輝 市村智子
大木由貴 三科十茂子
清水和稀

向徳舎クリスマス忘年会

令和6年12月21日にクリスマス忘年会を開催しました。感染症の影響で、保護者様のクリスマス忘年会への参加は数年ぶりとなり、利用者様は嬉しそうな様子が見られました。

当日はスタッフによる飾り付けで会場が彩られ、一年間の思い出を振り返るスライドショー、ボランティアとして来ていただいた山梨学院大学芸能部軽音部門の皆様によるバンド演奏、桃花台学園太鼓部の皆様による和太鼓演奏、豪華な食事やクリスマスプレゼントの配布により、利用者様には笑顔が見られ、大盛り上がりでの幕引きとなりました。

一年の締めくくりに、利用者や保護者の皆様とともに楽しい時間を共有できたことを大変嬉しく思います。これからも皆様に喜んでいただけるようイベントを企画し、笑顔があふれる施設づくりを目指してまいります。



BCP訓練を行いました!!

令和7年2月28日に法人全体の職員研修で、自然災害BCP机上訓練を行いました。BCPとはBusiness Continuity Planの略称で、予期せぬ災害や緊急事態が発生した際に、事業活動を継続するための包括的な計画です。日本語では事業継続計画といいます。令和6年度よりBCPの作成が義務化され、当法人では令和3年10月に作成しました。今回の訓練では夜間の大規模地震を想定し、BCPの内容に沿ってそれぞれの役割を決め、課題に対してどのような対応をするのか、それぞれのグループで話し合ってもらいました。参加した職員は積極的に意見を出し合い、とても有意義な訓練となりました。自然災害や感染症等、緊急事態が発生した際に利用者様の生活が守られるよう、法人全体で考えていきます。



RAINBOW HEART

～虹の色から～

クリスマス忘年会

パネルシアター鑑賞。利用者様も一緒に参加してとても楽しかったです。一年間を振り返るスライドショーを観賞しました。懐かしい思い出がよみがえります。昼食は、ボリューム満点のクリスマスメニューでお腹いっぱいになりました。

ビンゴゲーム大会では、お菓子やクリスマス雑貨などが当たりました。

楽しい時間は短く感じるもので、あっという間の3時間でした。

保護者の皆様に参加していただく行事が少なくなっているのも、来年もまた保護者様と一緒にクリスマス忘年会が開けるといいな、と思いました。



新年会

新年会は、感染症もあり行えなかったため、どんど焼きを皆さんで行いました。火が怖くて近づけなかった利用者様もいましたが、自身で書いた席書きを燃やすことができました。



節分祭

節分祭では、「鬼は外福は内」と、皆で言いながら鬼退治をしました！しっかり鬼をやっつけて楽しんだ後は、お豆を食べました。鬼の角を指で作り、カメラ目線をくれた利用者様も、楽しまれていました。



風の音より

早いもので風の音も開所して4周年を迎えました。グループホームでの生活とは、という段階から、入居者様もグループホームでの生活の経験がない中で一体どのような生活を過ごしてもらおうのが良いのだろうと試行錯誤を重ねながら進めていきました。「グループホームならではのより良い生活」「グループホームだからこそできる支援」という方向に次第に職員の意識も向いていき、世話人さんもいつも親身に入居者様に関わってくれて、今では入居者様にも満足していただけるグループホームへ成長していったと感じております。より充実した支援や活動が行えるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いします。

